

7th  
2013春





# 「表現の生まれるところ」

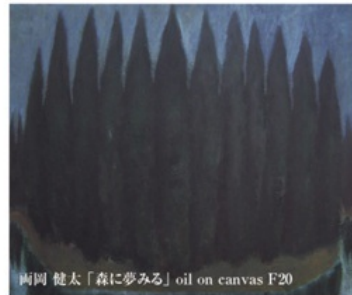
シリーズ特集 最終話

「表現の生まれるところ」って、  
んなところだろう？

第1話「油絵具ができるまで」  
では、画家の表現を支える油絵具  
の製造工程をレポート。絵具づく  
りをする人々の、「アートに親し  
む人を増やしたい」という思いを  
紹介した。第2話は「アトリエ  
ってどんなところ？」アトリス  
トの表現が生まれる場所、「アト  
リエ」を訪れ、そこで制作する  
人々取材した。そして、最終  
話。今回は作品を展示・発表する  
場、「ギャラリー」を訪ね、作品は  
どのように展示されるのだろう。

## エリトアとは

フリーペーパー「エリトア」は  
より多くの方々にアートに親しんで欲しい  
と願うアーティストたちが発行しています。  
選りすぐりのアート作品の掲載はもちろん  
ワークショップのレポート  
アートを通して社会に携わる人々の声  
アートに関するちょっとしたコラムなど  
アートな情報満載です。



両岡 健太「森に夢みる」oil on canvas F20

# Contents

eritoo 2013年 春

3	シリーズ特集 最終話 「表現の生まれるところ」
8	新連載 まんまるくん 「めがせえがおのぶろふえっしょなる」 ／ Ai Kisaragi
10	WE LOVE ART ～アートとふたりの生活 renewal 第5話～ 東京ジーザス × 高野えみみ
12	たちはらけいこのイラストワーク 5 「Happy Brand-new Day」／ 立原圭子
14	僕と鉄 第7回 「CHE-D-B-R」／ 高橋輝雄
16	絵画教室 体験レッスンに挑戦 ～絵画教室アトリエ・エビス～
17	ネジ立体製作所 第6回 「優雅なスケーター」／ 古田紀彦
18	語り上戸 7杯目 「ホットワイン・スノップ」／ 酔生 織 ～仏像奉納プロジェクト～ 第3回 「進まない復興」／ 加藤巍山

両岡 健太 個展  
2013年2月18日(月)～3月17日(日)  
月～土 12:00～24:00 / 日・祝 12:00～19:00  
クラインブルー ギャラリー & カフェバー  
東京都千代田区神田神保町1-7 三光堂ビル 2F  
TEL : 03 - 3295 - 2635

ドラードギャラリーでは作品が数千円単位から購入できる。「気軽にアートを楽しんでもらうこととアート界は活発になっていくと思うんです」と小原氏。

「いろいろなギャラリーがあっていいと思うんです。僕は、今までに無いスタイルでやろうと思った」小原聖史



### 小原聖史 Ohara Kiyoshi

「まだ無名でこれから開花する作家に、光を当てたいと思っています」と小原氏。facebook、ブログ、セカンドライフなど、それぞれの特性を活かし、両方での展示とリンクさせて、相乗効果で盛り上げる。

「毎月モヤギャラリーで展示会も開催しているのですが、来場して下さる方は首都圏の方がほとんどです。住んでいる場所に関わらず、より多くの方に作品を紹介したいという目的もあって、ドラードミュージアムを始めました」と小原氏。現在20名の作家の作品が閲覧できる。(2012年11月現在)

新宿区早稲田にあるドラードギャラリーのオーナー、小原聖史氏は、若い作家たちの才能を発掘し発表の場を提供、人と人をつなげていくためのさまざまな取組みを進めている。新たにスタートさせた「架空展示スペース」もその一つだ。

2012年11月、ドラードギャラリーは、セカンドライフ内の「ドラードミュージアム」を構築した。架空の美術館内に展示された作品は、国内外から無料でアクセスできるようなった。

ギャラリーとは、アート作品の展示や販売をするスペース。開近で作品が見られるのはもちろん、在那作家と話すできたり、気に入った作品をその場で購入できるなど、アートファンにとってはとても魅力的な場所である。今回はホタテのギャラリーに、ギャラリーの運営や展示の企画についてお話を伺った。

#### ネット上の美術館

**Information**  
 ドラードギャラリー Dorado Gallery  
 ●東京都新宿区早稲田鶴巻町  
 517 ドラード和堂ビル 103  
 ● <http://oldtimes.jp/>  
 ● TEL:03-6809-3808



ドラードミュージアム(右):セカンドライフ内に構築されたネット上の美術館。それぞれの展示にはオリジナルの音楽も付けて、動画サイトyoutubeからも視聴できる。プロフィールなども英語翻訳され、国内外から簡単にアクセスできるようになっている。セカンドライフ:米リンデンラボ社が運営。3DCGで構築された、インターネット上に存在する仮想空間。



DORADO MUSEUM in SecondLife

# 「慣れてしまうと、そこから新しいものは生まれないよ」 Mr. Nathan Cartwright

## 日米間での交換展覧会

次に紹介するのは、昨年11月に新宿眼科画廊で開催された展示「Hive-Zilla (ハイブジラ)」。ロサンゼルスにギャラリーを構える「The Hive Gallery and Studios (ハイブギャラリー&スタジオ)」による、日本で初めての展覧会だ。The Hive Gallery and Studiosのオーナー Mr. Nathan Cartwright (ネイサン・カートライト氏)は「新しいものを見て刺激を受けると、その先に新しい道が開ける。その試みの一つとして、今回サン・カリフォルニアのアートを日本で紹介する展示を企画したんだ」と語る。同じ場所、環境、仲間にも関わらず、とても心地がいい。でも、慣れているとそこから新しいものは生まれないよ」と Mr. Cartwright。昨年自身のギャラリーでも、日本作家の展示をプロデュースした。新しいものを求め、国を越えて交流を広げ、発信し続けている。

インターネットを利用して、展示スペースをハイブギャラリー空間にまで広げた、小原氏。日本間での交換展覧会を企画し、発表の場をひろげた、Mr. Cartwright。ふたりからは、時代や環境に合わせて、新しい切り口で「アート」をより身近で楽しめるものにして、「こう」として、柔軟かつ真摯な姿勢を感じた。

ギャラリーは、アーティスト、作品、鑑賞者をつなぐ場所。そして、ギャラリーは、ギャラリーを盛り上げ、演出し、人と人とをアートでつなぐ。あなたも、ギャラリーへ足

## Mr. Nathan Cartwright

ハイブギャラリー&スタジオのオーナー、カートライト氏。国を越えての展示活動や、アーティストとのやり取りに力を入れている。現役のアーティストでもあり、あつい情熱の持ち主だ。

「Hive Zilla」レセプションパーティーの様子。国内にいながら海外のアーティストを体感できる展覧会。

**Information**  
The Hive Gallery and Studios  
http://hivegallery.com/2010/  
・2013年秋に第2回「Hive-Zilla」開催予定。



左:「Hive-Zilla」には、30名の所属アーティストの作品が展示された。どれもみな完成度が高く、見応えがある。

**Zephyr**

微香性油絵具  
— ゼファ —  
LIGHT AROMA OIL COLOURS

香り、彩る。

においを我慢しない。  
日常の生活のなかで自由に油絵が描け、  
家族にも快適な環境のままで制作できたら素晴らしい。  
そんな希望を形にした微香性油絵具「ゼファ」。

描く人も、描かない人も、快適に。

株式会社クサカベ 〒351-0014 埼玉県朝霞市朝霞町 3-3-8 TEL.048-465-6661 www.kusakabe-enogu.co.jp

株式会社クサカベ 〒351-0014 埼玉県朝霞市朝霞町 3-3-8 TEL.048-465-6661 www.kusakabe-enogu.co.jp



**Artrates Japan**  
海外で日本人アーティストを紹介する  
展示会を開催しています

**ニューヨークで  
展示してみませんか？  
参加アーティスト募集**

**ニューヨーク展** Rogue Space Gallery  
2013年5月開催 参加費 60,000円  
世界的な画廊が密集するタイムスリーストリにある画廊です。

**ロサンゼルス展** Hive Gallery  
2013年12月開催 参加費 Part.1 60,000円 / Part.2 45,000円  
詳しくはホームページをご覧ください。

**Artrates Japan**  
WEB: <http://www.artrates.net/>  
MAIL: [info@artrates.net](mailto:info@artrates.net) TEL: 080-6607-1111  
ニューヨーク事務局  
27 W 27th Street # 5, NYC, NY 10001

**まんまるくん** 新連載

第1話  
「めざせえがおの  
ぶるふえつしよなる」

Ai kisaragi

見えない時間(時空)をテーマとし主に平面の創作表現をしています。まんまるくんは作者が創作する中、円の世界からあらわれました。

まんまるくん(プロフィール)  
身長173ミリ 性別不明  
どうやら時空間の旅人で  
人間に興味をもっている。

表現の生まれどころ 最終話



を運んでみてはいかがだろうか。あなたにとって特別な「なにか」に出会えるかもしれない。

**シリーズ終わりに**

シリーズでお伝えしてきた「表現の生まれどころ」絵具やキャンバスを作る人々、絵を描くアーティスト、発表の場を企画・演出するギャラリスト。一枚の絵が誕生し発表されるまで、実に多くの人々が関

わっており、アートの携わる人の数だけ、さまざまな「表現」のかたちがあるのだと感じた。

「表現の生まれどころ」それは特別な「ところ」ではない。例えば、部屋に一枚の絵を掛けるということも、あなたの好みや意思を表す「表現」といえるだろう。そして、作品を見て感じることで、あなたの心の中に新たな「表現」が生まれる。日常のなげない空間に「表現の生まれどころ」はあるのだ。

取材・文/川野ヒロミ エディタ編集部 写真/宮原美恵  
取材協力/ドワードギャラリー 新宿画廊

# WE ♥ ART

～アートとふたりの生活～



アートに携わるカップルを紹介する本コーナー。今回はふたりの立体造形作家、石山さゆるさん（アーティスト名 東京ソーザリスと高野えみさん）。

お互いアートの世界に生きる者同士だが、全く異なる道歩んできたふたり。出会った当初は、真逆の価値観を持ち合わせていたという。

石山さゆるさん（以下、石山）：「彼女はけっこうアカデミックな、デッサンとか、昔の美術とかをすごい真面目に勉強して、作品も『固め』なものを作っていて。反対に僕はアメリカのポップカルチャーだった。どっちかっていうとやわらかい、ストリートに近いようなアートが好きで、出会った頃は、それぞれ全然異なっていて、理も出来ませんでした」

高野えみさん（以下、高野）：「そう、そんなことがおもしろいのって（笑）。」

だが、この異なるもの同士の出会いが、それぞれに「進化」をもたらした。

石山：「お互い今まで知らなかった世界に興味を持ち始めちゃって。僕は昔の美術に没頭するようになって、逆に彼女はカシュアルなアートに没頭するようになって」

その頃から作風がお互い「遷る」ようになってきたという。

高野：「難しい概念的なことよりも、より単純なものの方が、『たのしい』『かわいい』『なごみ』みたいな、そういったものを表面に出していきたいな、と」

石山：「逆に僕は昔の美術から引用して

きたりとか。上手い具合に、お互いの価値観を入れ替えた上で、さらに自分の価値観を重ねていく、といったことが出来るようになってます」

今では生活を共にしながら、お互いの作品のアイデアを一緒に考えたりもすることもある。高野寺のお店「ギャラリー&アーティスト アリスと豆の木」店内は、訪れた人が今まで馴染みのなかった世界でも気軽に足を踏み入れられるよう、工夫が凝らされている。

高野：「難しいことじゃなくて、通りがかった人がふらっと立ち寄って、『あ、なんか可愛い、買ってこかな』みたいな」

石山：「絵は気軽に買えるんだよ、彫刻を部屋に飾ってもいいんだよ、っていうことを一人でも多くの人に伝えていきたいんです」。

ふたりの思いは「一語別」。

異なる価値観の間に、壁なんて本当は存在しない。ふたりの在り方は、それを証明しているように感じた。



**東京ソーザリス 造形家**  
玩具原型師を経て造形家に。現在、生きる滑稽さと美しさをテーマに国内外で活動中。同時にアートをもっと身近にしたというアートストア「アリスと豆の木」を高野と運営中。  
<http://www.sayurushiyama.com/>



**高野えみみ 作家**  
どこかで自分と同じように生きて生活している、シュン子とシュンたろうという名前のぬいぐるみを毎日制作し、国内外で展示活動中。アリスと豆の木店主でもあります。  
<http://www.eymitakano.com/>  
アリスと豆の木HP  
<http://www.aliceotomamenoki.com>



Keiko たちはらけいこの  
イラストワーク

# Happy Brand-new Day

結婚式を迎えるお二人のために  
2012年制作



制作絵本「いついのほね」、挿画集「物語の始まる日」を電子書籍版と手製本版で販売しております。

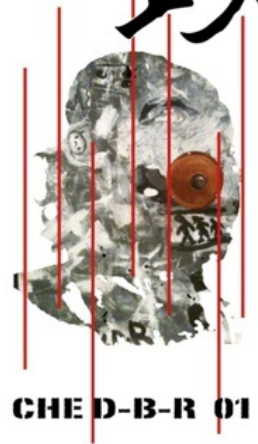
- 【手製本版取り扱い店】
- ・ポレポレ書房 (<http://www.polepole-shoho.com/>)
- ・syoka (<http://syoka.jp/>)
- 【電子書籍版URL】
- ・いついのほね (<http://jp.booklog.jp/book/20707/>)
- ・物語の始まる日 (<http://jp.booklog.jp/book/18741/>)

立原 圭子 Tachihara Keiko

筑波大学大学院修士課程修了。2007年よりフリーランスイラストレーターとして活動を始め、カレンダーや年賀状素材集、クリスマスカードなどを手がける。2012年国際展観覧で掲載されたAQUENTガランダー・コンテに入賞。絵本『018』のライブアウツと録音、こつこつと製作中。  
<http://k-coubou.sakura.ne.jp/>



# 僕と鉄



CHE D-B-R 01

2012年夏、マルコヴィッチな家(マルコヴィッチな家)に於いて、前号のエリアに掲載のペンキ塗りにて結成したペンキ塗りアーティスト集団が、アートユニットCHE D-B-Rとして活動することになった。

CHE D-B-Rは熱々鉄のように、打たれても折れない、どんな形にでもなっていく活動をする。でも、不用意に打つと、大やけどするかもしれないアートユニットだ。2013年は、初期メンバーの、KURO、山崎りょう、如月愛、高橋輝雄の4人に、兼川真優子、Makiko Lalaso、Takahashi、玉川宗明の3人に加え、男女7人で、2月13日

から、横浜元町のGallery art Truthにて「CHE D-B-R 01展」を行う。この展示開催中、会場にて、アートユニットCHE D-B-Rとして7人のコラボ作品が1つ制作される。また、今後、CHE D-B-Rの展覧ごとにコラボ作品がつくられることになる。

7人の同志(同志というほどマ、トマリはなし)の特徴を紹介する。

KUROは絵描き活動を中心に、舞台美術、音楽家やファッションデザイナーとのコラボを手がける。風俗の街、吉原で無縁仏としてつくった女達をモチーフにして描いた絵は圧巻だ。東京、ニューヨーク、パリと国際

的にも展示活動をしている。山崎りょうは、仏像彫刻からポップな革の立体作品、ブロンズや銀の鑄造、呼吸のドローイングを行う。そして、同刻アーティスト「てれとろ(テレパシードローイング)」の創始者でもある。

如月愛は絵描き、その絵の中から生まれた「まんまるくん」は絵から飛び出し立体や「manokapari」になったり、ストーリーを持つ。たりと独自の活動を始めた。また、KUROと「アート探偵」というユニットで活動もしている。僕、高橋輝雄は「無(何も無



現代美術家 Kuro

右:横浜元町のGallery art Truthでの「CHE D-B-R 01」展のDM。詳細は<http://chedb.jmdo.com/>



玉川宗明の自画像か?



現代美術家 如月愛



Makiko Lalaso  
Takahashiの人物



兼川真優子の作品

## 第七鋼 CHE D-B-R

しということではないが、無いかもしれない」と「あっぱい」を中心に日々生活、制作をしている。兼川真優子は、小悪魔的な人形作家。彼女の作る人形は、暗闇からスポットライトを浴びながら登場し、耳元で破滅に導くようなことを囁きさうだ。もちろん、絵を描いたり、てれとろ受信機を制作したりもする。

Makiko Lalaso、Takahashiは、ナイケでエロティックなドローイングや絵画、人形制作、小さな家づくり、紙がなくなると自分の顔に絵を描いていたりする。そして最後に、玉川宗明。彼のドローイングと詩のコンビネーションには、心の底をさぐるようなインパクトがある。Makiko Lalaso、Takahashi、Kuroの3人のライヴイベントやミュージックイベントも開催している。

2月後半からは、大森アートビレッジプロジェクト(東京都大田区)のイベント、大森アートフェスタ2013に登場。大森のトキザワ眼鏡店ウィンドウギャラリーにて、CHE D-B-R「てれ



高橋輝雄 Takahashi Teruo 「心も記憶も酸化する」をコンセプトに、鉄を溶で錆びさせた立体や平面作品を制作。また、呼吸と顔によるドローイング。白と黒の顔面も手がける。東京、ロンドン、トロントにて展示活動中。 <http://www.teruo-takahashi.jp>



てれとろ「あっぱい」を着た高橋輝雄

どろ」作品も約1ヶ月に渡り展示される予定だ。

CHE D-B-Rは、依頼があればペンキ塗り集団としても引き続き活動する用意もある。ただし、ペンキ塗りは、全て「白」か全て「黒」。そして、全て「あまかせ」のみである。美術館、画廊、眼鏡屋さんのショーウィンドウ、公園、家のペンキ塗りまで、CHE D-B-Rはどこにでも出没する。



**古田紀彦**  
1973年埼玉県川口市出身。福口自動車整備工場勤務。高校卒業後自動車修理工業に入りその後2009年3月ワークショップにて制作。2010年9月ネジ立体制作再開。部長となる。これからは身近にあるネジたちに愛情をこめぬ作品をみにつける。

**ネジ立体制作所 古田紀彦 第6回 優雅なスクーター**  
「ネジ立体制作所」ロゴデザイン 島田美穂子



ネジ立体制作所所長古田紀彦です。今回の作品は、優雅なスクーターです。この作品は合体作品の可なりですが、某百貨店でプレートを購入して作業場（部屋の片隅）で試みています。

た。プレートに自分の顔が映っていた。その時、何かスクーターに似て見えた。同時に、子供の頃スクーターに乗った時に、おじいさんが後ろに手を組んで人並みを流石に滑っているのを思い出した。その思い出を作品に出してみました。その思い出が、家の中の扉の裏面になって、その扉の中を流石に滑っている。この作品は毎日目にする作品ですね。そんな作品を制作して行きたいと思っています。

**語上ア**  
七杯目

**ホットワイン・スノツプ**

寒い日が続きます。酒は酔うためのものであって、酔って語る「語り上」が本来の楽しみ。今頃は暖まるためのカクテルをだっけて楽しんでる……

ホットワインというのは和製英語。これは知ってた。英語では「モルドワイン」。これは今知ってしまった。仏語「ヴァンショー」は「熱湯・アリュール」の「ヴァン」の方が聞き覚えがある。単純に言えば、温めたワイン。そこに好みの材料を加えたら、お気に入りの材料を加えたら、お気に入りの材料を加えたら……

赤ワイン 200ml  
オレンジジュース 100ml  
オレンジシダーマレード  
スパークリング水 1杯  
クローバー 3〜5粒  
マイヤーレモン 1/2個

鍋で温めて耐熱グラスに注ぎシナモンスティック。

特に、カクテルの工程・マティーニでは好みの材料や作り方を言い合ったりする「スノツプ」という人達がいる。

ワインは？ 甘味は？ スパイイスは？ 柑橘類は？ 適量の自由があるって面白いので、格別採らず自由に組み合わせてみるのが楽しい。ただし、行き過ぎたスノツプはウザイので注意！

＊フィートレモン  
形はレモン。色はオレンジ。両方の特徴を持ち、味も酸味も甘みも兼ね備わっている。皮も食べられる。

学生 200人  
活動したり・料理したり・印刷したり・運動したり・イラストを描いたり・音楽を聴いたり・本を読んだり・モンスタースーツを着たり・運動人だらしながら日々過ごして行きます。

**絵画教室 体験レッスンに挑戦**

恵比寿駅から徒歩2分。本格的な絵画教室のレッスンを体験できます。絵を始める方、ぜひ挑戦してみてください。

1. 行ってきます！  
今回体験レッスンにお邪魔したのは、「絵画教室アトリエ・エビス」さん。初めてのレッスンにドキドキ……

2. もっと色を塗ると、さらに個性が出るかもしれないね。  
室内はこんな感じ。広くてとても綺麗！  
なるほど……

3. 制作スタート！  
レッスンは約1時間。モチーフはりんごでした。画材は色鉛筆・鉛筆・パステルの中から好きなものを選んでます。今日はパステルをチョイス。さあ、描くぞ！

4. 先生から、さりげないアドバイス。画材の使い方も丁寧に教えてくださるので、初めてでも安心です。

5. アドバイスを参考に制作再開！

6. 完成！もちろん作品は持ち帰れます。額装して部屋に飾ろうかな？

**information**  
絵画教室アトリエ・エビス「第6回サムホール展」開催  
2013年4月6日(土)～14日(日)  
12:00～19:00  
●8(月)は休館、12(金)は21:00まで  
14(日)最終日は16:00まで  
会場「弘葉ギャラリー」

美しく・楽しく・創造性豊かに描こう  
art school **ATELIER EBIS**

アトリエ・エビスは今年で創立33周年。静物コース、人物コース、ジュニア・ブジュニアコース、クッキー会の5つのコースがあります。教えてくださる先生は、現役のアーティスト。初心者の方ももちろん、本格的に絵を学びたい方にもおすすめの絵画教室です。人物コースも体験レッスン随時受付中！

2013.4.6(土)～4.14(日) 12:00～19:00  
会場「弘葉ギャラリー」

¥150,000  
東京都渋谷区恵比寿南 1-13-10 ビオスコート1F  
TEL: 03-3719-4920  
HP: http://www.atebis.com



彫刻家・加藤山と仏師・三浦雄山が中心となって仏像を彫刻し、被災地に奉納しようという活動を紹介します。



釈迦如来坐像の1/4原型。原型を通して、加藤山と三浦雄山が意思を統一しご奉納を形取り進めます。

第3回 進まない復興

12月7日、17時48分頃、三陸沖を震源とする強い地震が発生した。関東でも強い揺れを感じた。津波警報が発令された後、NHKの臨時ニュースで、「命を守るために逃げてください」「東日本大震災を思い、出してください」などと緊迫した声で避難を呼びかけていた。3月11日の震災と津波。あの日の事を思い出し、揺れ以上に気持ちが悪くなった。翌日の8日、昨日の地震の事が心配で大槌町の江岸寺さんに電話をした。ご住職の声を聞いて安心

したけれども、「逃げてもしようがないからね」という言葉を聞いて、ハッとしたと同時に少し心配になった。ご住職の地獄のような体験と失ったものの事を思えば、そういう心持になってしまった。その心は自分には押しきれないけれど、悲しくなった。少しでも寄り添える事が出来ればこの春、花の咲く頃に大槌町の皆さんに会いに行こう。

被災地の復興も多くの問題を抱えており、復興が進んでいる所、一向に進まない所、地域や業種によって、復興の進捗が様々が指

標されている。江岸寺は今現在、復興再建に向けてご尽力されていますが、町の復興の指針も定まらず、遅々として進んでいません。震災と津波から半年、一年、一年半と時間は過ぎても景色はまったく変わりません。

当初、2014年の奉納を目標にプロジェクトを発足させましたが、寺院再建の目途が立たないこと本意をお伝えできないと言った。ご住職の大震災後、復興の意向を踏まえて、現在は2016年を目標にして制作に当たっています。町の方にとって江岸寺は心の拠り所でもあり、仏像の奉納だけではなく、江岸寺、大槌町、そして被災地が一日でも早く復興する事を願ってやみません。



上：江岸寺裏手からの大槌町の景色。悲しくなるほど青く湛んだ空と緑や赤や黄。2011年12月4日撮影。左：釈迦如来坐像。右：加藤山。



加藤山 Katoh Guan 1968年東京、両国生まれ。埼玉県白岡市在住。高村光太郎の流れを汲む仏師・岩松地文師の下で修業を重ね、仏像の彫刻、日本の伝統工芸を継承した作家を制作。2004年住職入道。09年「本願寺三人展」(日本橋三越本店)、「根と和み-木彫作五五人展」(大塚タカシマヤ)日本橋三越本店、大阪、京都、名古屋タカシマヤを中心に発表の他、寺院に納める仏像を制作。12年、復興(大塚タカシマヤ)。

三浦雄山 Miura Yusen 仏師。1973年埼玉県新井町出身。京都府京都市在住。1996年早稲田大学政治経済学部卒業。一級造形士として活躍。1999年仏師連合会に加入。以後13回に渡り、師のもとで数多くの仏像彫刻・修復に携わる。2011年職名を「雄山」とする。2012年独立。拠点を京都市に移し活動始める。

- 縁プロジェクトウェブサイト <http://www.butuzohono.org>
- Facebook 仏像奉納プロジェクトページ <http://ja-jp.facebook.com/butuzohono>
- Twitter / @butuzohono\_tag

【エピソード先二回】  
● 加藤山  
● 三浦雄山  
● 加藤山と三浦雄山の出会い  
● 加藤山の仏師としての活動  
● 三浦雄山の仏師としての活動  
● 加藤山と三浦雄山の共同制作  
● 加藤山と三浦雄山の今後の活動

- 加藤山 Katoh Guan  
● 三浦雄山 Miura Yusen  
● 加藤山と三浦雄山の共同制作  
● 加藤山と三浦雄山の今後の活動

【編集後記】  
「もつと長くしたい」「さらに上を目指したい」。今よりも前に進みたい。エピソードの取材現場で、聞き手である私達も、ものづくりに携わっている方々のように敬意を払いつつ、自分も前進を続けたいと思います。  
2013年2月、岩崎美穂

その一瞬を、とらえる

# 川越クロッキーズ アッサンブル

参加者募集中!

◎詳細はホームページをご覧ください  
<http://www.kawagocroquisassemble.com/>

◎参加予約メール  
[kawago\\_cro@mail.goo.ne.jp](mailto:kawago_cro@mail.goo.ne.jp)

## 川越市美術館創作室



IIIT7

第7号 2013春 2013年2月15日発行

エリトア編集部 〒350-1101 埼玉県川越市大字的場2835-5-201 <http://www.eritoo.com/> E-mail [eritoo@mail.goo.ne.jp](mailto:eritoo@mail.goo.ne.jp)  
編集・発行人/木村和弘 ◎本誌掲載の文章、写真、イラストなどの無断転載・複製(コピー)は禁じられております。